

2025年6月26日
株式会社ロイヤリティ マーケティングPontaリサーチ会員3,000人に聞いた
第62回 Ponta消費意識調査 2025年6月発表

【夏のボーナスの使い道ランキング】

12年連続「貯金・預金」がトップ。一方、割合は4年続けて減少し、過去最低
貯金・預金しない理由は、生活費や日常支出への補填意向が約3割

共通ポイントサービス「Ponta（ポインタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：勝 文彦、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第62回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2025年5月24日（土）～5月26日（月）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

注目トピック

「夏のボーナス」の使い道

<消費者意識>

- ・ 「夏のボーナス」の使い道（P.2）
 - －夏のボーナスの使い道、「貯金・預金」が12年連続1位。前回調査より1.0ポイント減り、過去最低の32.4%
- ・ 夏のボーナスの支給額（P.3）
 - －夏のボーナスの支給額が「増える・増える見込み」が約半数。「40万～80万円未満」の金額帯が増加した
- ・ 夏のボーナスの「貯金・預金」の割合／「貯金・預金」の用途（P.4）
 - －夏のボーナスの支給額の半分以上を貯金・預金したい人は54.8%
 - －貯金・預金の用途は「老後の生活への備え」が約7割
- ・ 夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由（P.5）
 - －夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由、1位「生活費や日常の支出に充てるため」が約3割

<節約志向>

- ・ 消費者の節約志向／節約志向の有無の理由（P.6～7）
 - －「節約したい」派は60.5%となり、前回調査より6.3ポイント減少
 - －前回調査と比べて、節約したい派の理由は「特にない・なんとなく」が5.0ポイント増加、節約したくない派の理由は「節約にまわす余裕がないため」が5.5ポイント増加

<ポイントサービスの利用意向>

- ・ ポイントの活用意識と節約志向（P.8）
 - －「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が42.5%と最も高い。「節約したい」派では「いまつかいたい」が45.1%と最も高い。「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

<調査概要>

調査方法：インターネット調査

調査期間：2025年5月24日（土）～5月26日（月）

パネル：「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をいただいている方）

回答者数：3,000人 男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。

<引用・転載の際のクレジット表記のお願い>

調査結果引用・転載の際は、「Pontaリサーチ」調べとクレジットを記載していただきますようお願い申し上げます。

＼ LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています ＼

消費者意識

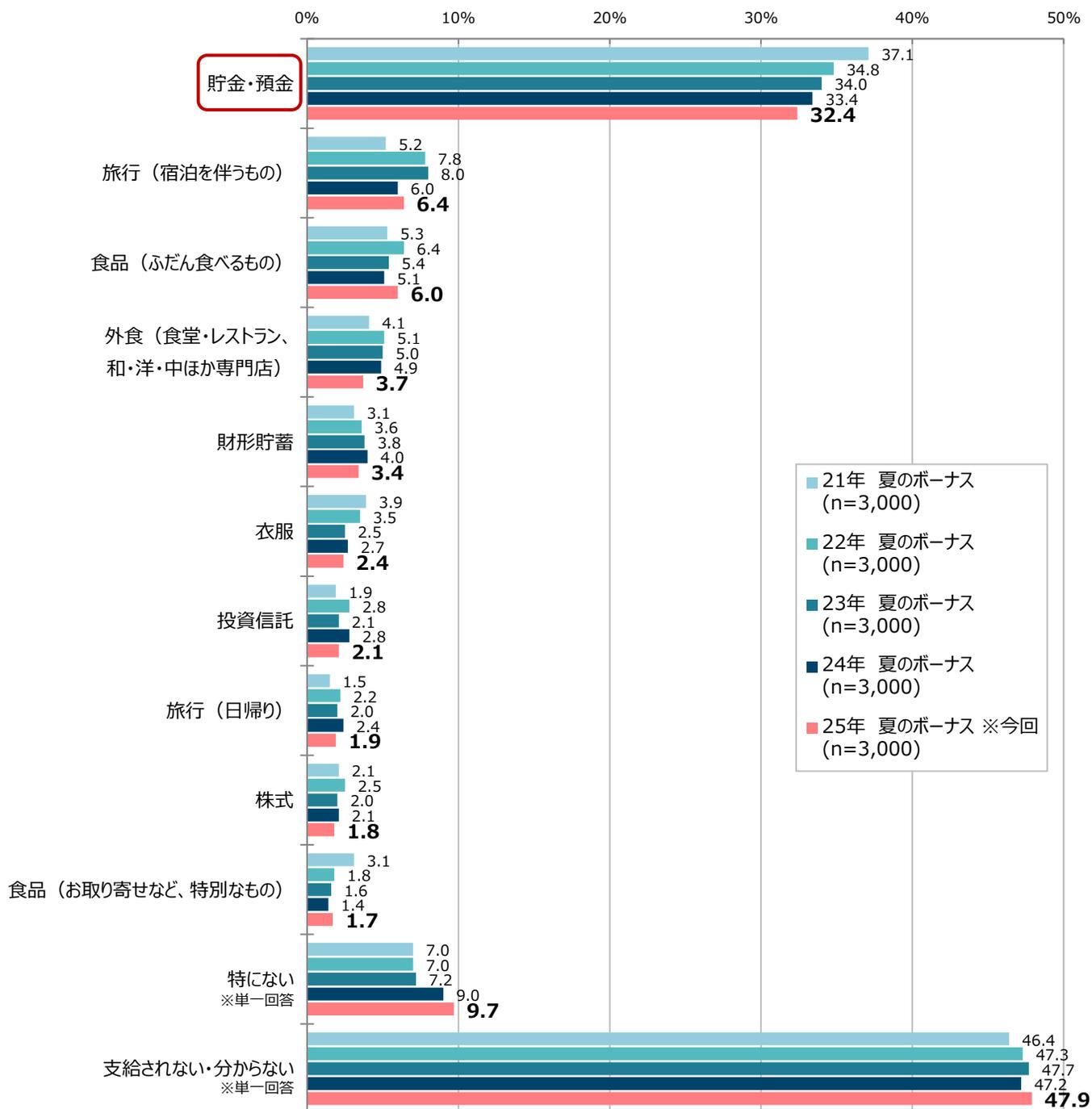
「夏のボーナス」の使い道

夏のボーナスの使い道、「貯金・預金」が12年連続1位。前回調査より1.0ポイント減り、過去最低の32.4%

- ・2014年の調査開始以降、夏のボーナスの使い道は12年連続で、1位「貯金・預金」となった。割合をみると前回調査よりも1.0ポイント減少し、32.4%だった。前回調査を下回るのは4年連続で、過去最低となった。2位は「旅行（宿泊を伴うもの）」、3位は「食品（ふだん食べるもの）」だった。
- ・「特にない」は前回調査より0.7ポイント増の9.7%、「支給されない・分からない」は0.7ポイント増の47.9%だった。

■今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。（3つまで）

※今回調査で上位10項目を抜粋（「特にない」「支給されない・分からない」を除く） ※回答が同数で順位に差がある場合は、小数点第2位以下に差があるため
 ※2014～2020年の夏のボーナスに関する調査結果は、こちらからご確認いただけます。（<https://www.loyalty.co.jp/assets/storages/pdf/200624.pdf>）



消費者意識

夏のボーナスの支給額

夏のボーナスの支給額が「増える・増える見込み」が約半数。「40万～80万円未満」の金額帯が増加した

- ・今年の夏のボーナスが支給される方（見込み含む）に、昨年と比較した支給額について聴取したところ、「増える・増える見込み」という回答が50.2%で最多だった。
- ・夏のボーナスの世帯あたりの支給額（想定額を含む）は、前回調査と比べて「20万円未満」「20万円～40万円未満」が減少し、「40万円～60万円未満」「60万円～80万円未満」が増加した。

■今年の夏のボーナスの金額（世帯あたり）は、昨年の夏のボーナスと比較して、どう変化したか教えてください。これから支給される場合は、見込みを教えてください。（単一回答）

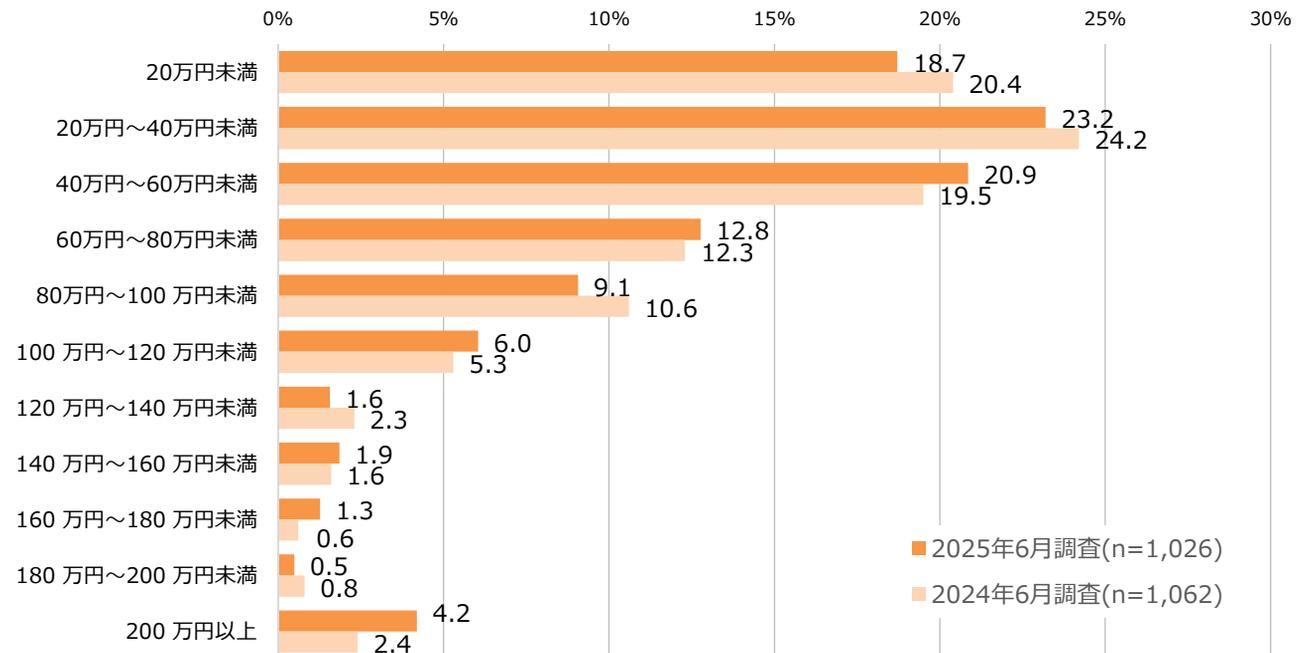
「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.2）の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。



■あなたもしくは家族にボーナスが支給される場合、今年の夏のボーナスの金額(世帯あたり)を教えてください。これから支給される場合は、想定される金額を教えてください。（単一回答）

「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」（P.2）の設問に対し、「支給されない・分からない」と回答した方を除く。

※本設問で金額を回答した方を抜粋（「分からない・答えたくない」と回答した n=538を除く）



消費者意識

夏のボーナスの「貯金・預金」の割合／「貯金・預金」の用途

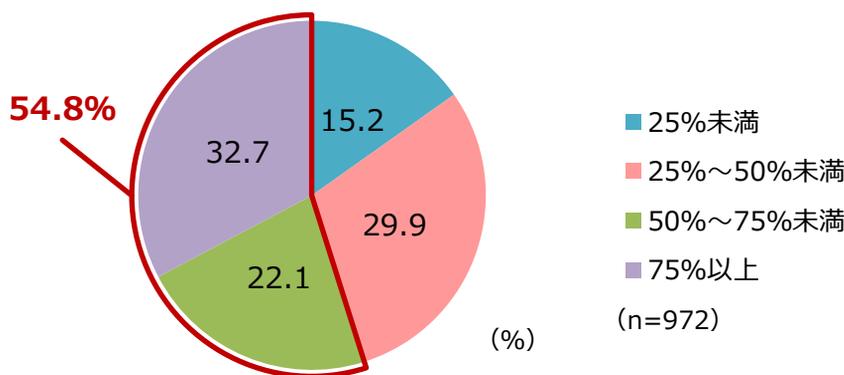
夏のボーナスの支給額の半分以上を貯金・預金したい人は54.8%。

貯金・預金の用途は「老後の生活への備え」が約7割

- 夏のボーナスの支給額のうち、貯金・預金したい額の割合が「75%以上」という回答が32.7%、「50%～75%未満」が22.1%となった。合わせると、支給金額の半分以上を貯金・預金したい人は54.8%だった。
- 夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」と答えた方のうち、用途を「決めている」人は39.6%だった。
- 貯金・預金の用途について、「老後の生活への備え」が69.4%となり、突出して高かった。「将来の消費への備え（住宅購入、子どもの学費など）」（36.9%）と比べると、32.5ポイント差となった。

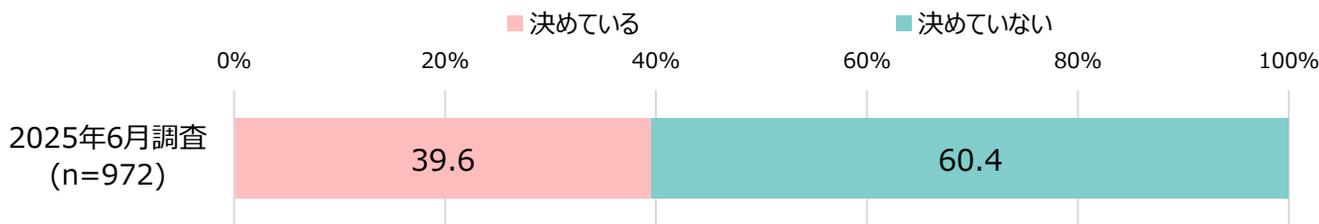
■ 支給される金額のうち、どの程度貯金・預金したいか、お答えください。（単一回答）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



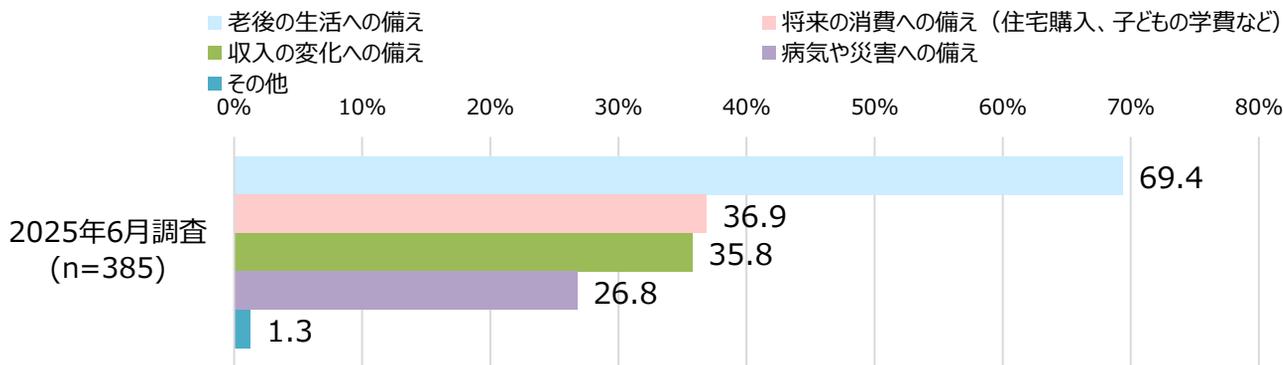
■ 「貯金・預金」の用途は決めていますか。（ひとつだけ）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のみ回答。



■ 「貯金・預金」の用途を教えてください。（いくつでも）

今年の夏のボーナスの使い道に「貯金・預金」を選んだ方のうち、用途を決めている方のみ回答。



消費者意識

夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由

夏のボーナスを「貯金・預金」しない理由、1位「生活費や日常の支出に充てるため」が約3割

- 夏のボーナスの使い道として、「貯金・預金」を選択しなかった方にその理由を聴取したところ、1位「生活費や日常の支出に充てるため」となり、約3割を占めた。次いで、2位「特別な買い物や旅行など、消費に回すため」が約2割だった。
- 年代別で見ると、50代が「生活費や日常の支出に充てるため」が最も高く、35.8%だった。60代以上では「その他」が32.4%と、他の年代よりも高かった。

■今回、ボーナスの使い道として「貯金・預金」を選ばなかった理由を教えてください。(ひとつだけ)

※「今年の夏のボーナスの使い道を教えてください。」(P.2)の設問に対し、「貯金・預金」以外を選択した方に聴取(支給されない・分からないを除く)。

- 生活費や日常の支出に充てるため
- 特別な買い物や旅行など、消費に回すため
- 株式や投資信託などで資産形成するため
- ローンの支払いに充てるため
- 自己投資に使うため
- その他



節約志向

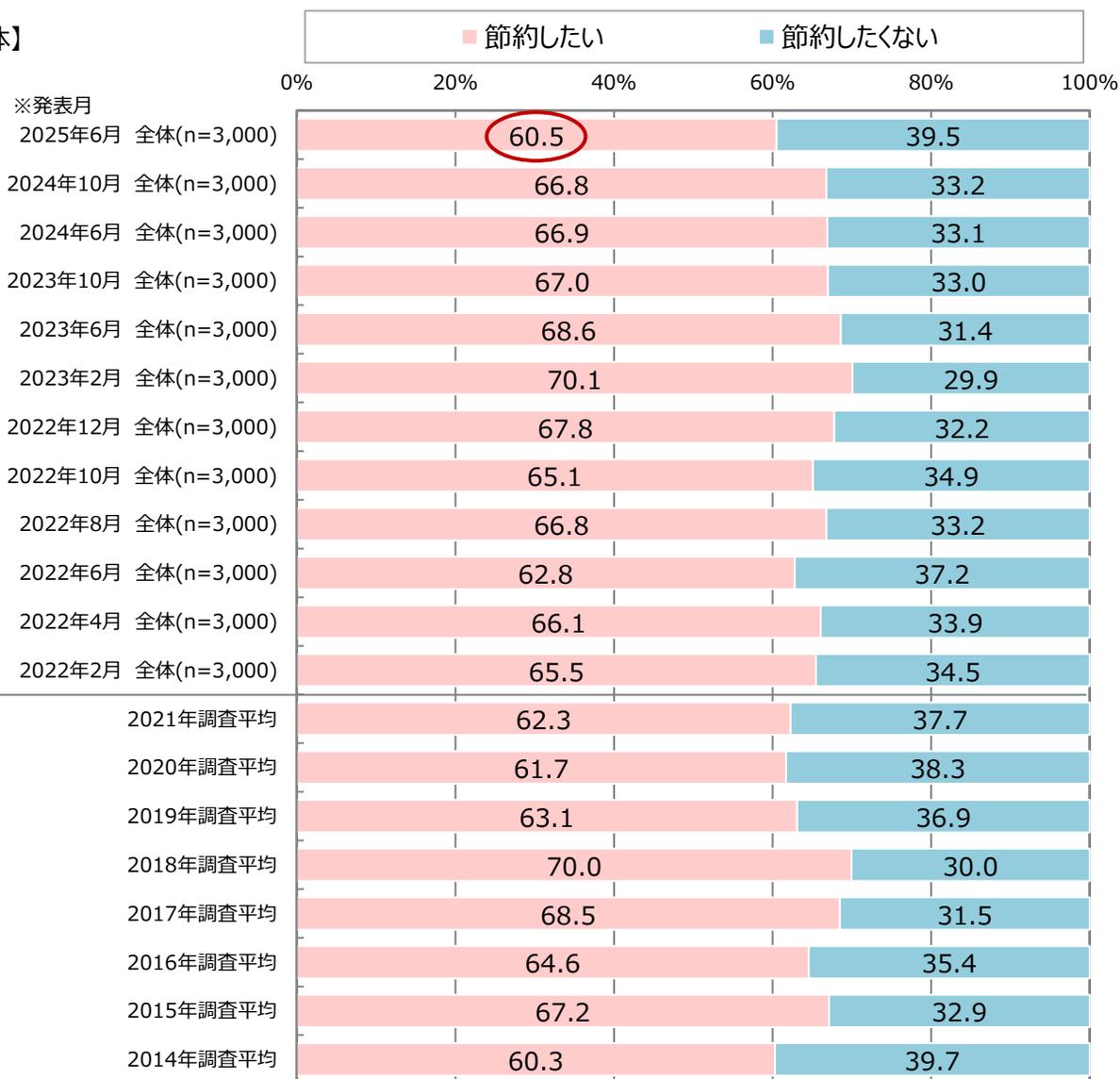
消費者の節約志向

「節約したい」派は60.5%となり、前回調査より6.3ポイント減少

・今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派は、60.5%となった。

■今月の家計の支出を節約したい割合

【全体】



・節約したい…節約したい金額が1円以上
 ・節約したくない…節約したい金額が0円

【参考】 <設問> あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）
 ※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

※2014年調査平均は4～12月の偶数月5回分、その他の年ごとの調査平均は2月～12月の偶数月6回分の平均です。
 各調査n=3,000、2014年4月調査のみn=3,013です。

節約志向

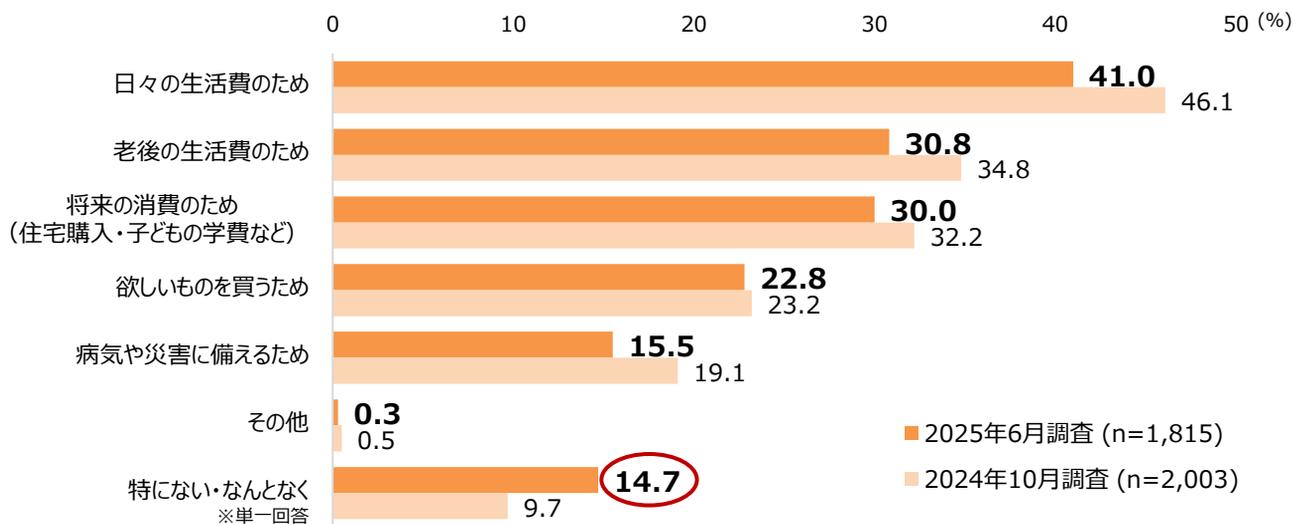
節約志向の有無の理由

前回調査と比べて、節約したい派の理由は「特にない・なんとなく」が5.0ポイント増加、節約したくない派の理由は「節約にまわす余裕がないため」が5.5ポイント増加

- ・ 今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派の理由は、前回調査と比べて「特にない・なんとなく」が5.0ポイント増え、14.7%だった。その他、明確な理由の選択肢は全て減少した。
- ・ 今月の家計の支出を節約したい金額に0円を回答した人の理由は、前回調査と比べて「節約にまわす余裕がないため」が5.5ポイント増えて26.1%だった。“節約の必要性がない”に当たる選択肢が全て減少していることから「節約したくない」という意向よりも、「節約する余裕がない」という実情への変化が伺える。

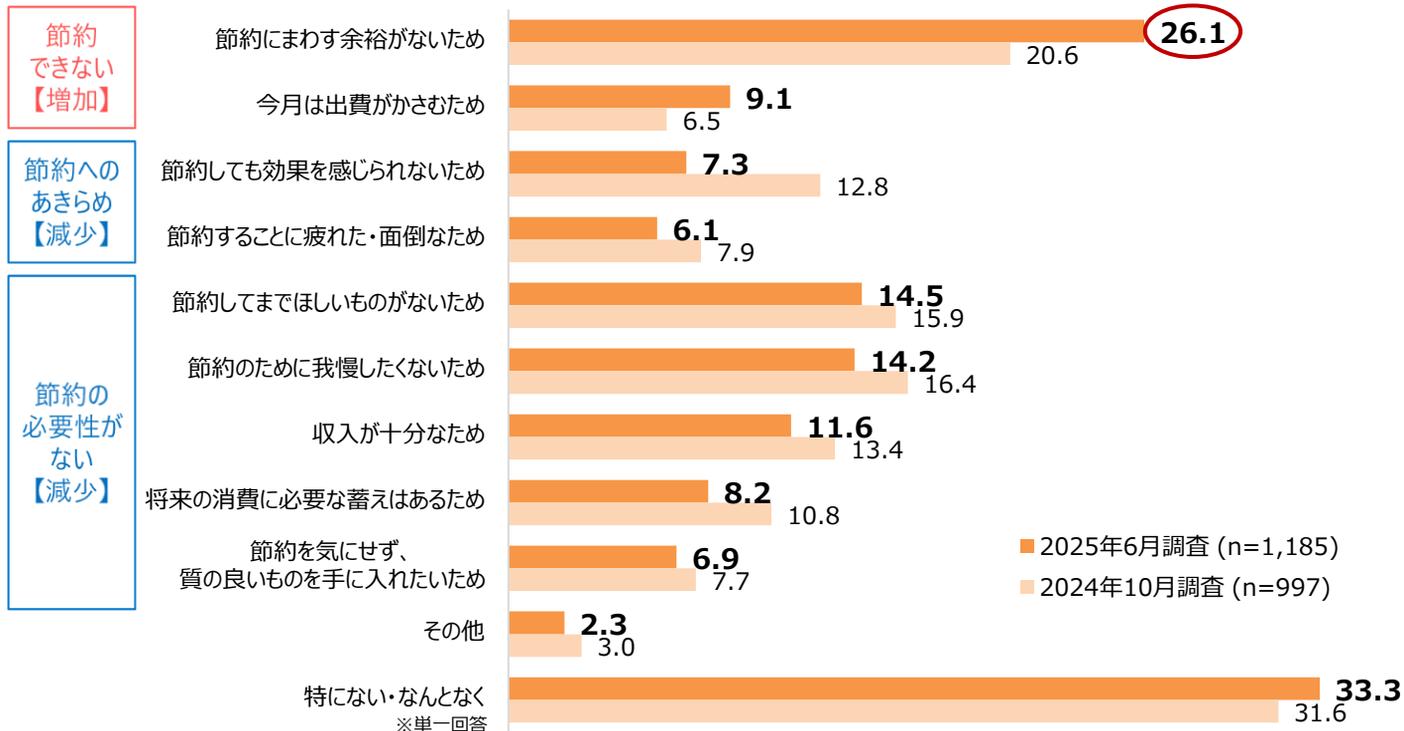
■節約したいと考えている方にお伺いします。節約したい理由を教えてください。（いくつでも）

※今月の家計の支出を節約したい金額（P.6）に、1円以上を回答した方に聴取



■節約したい金額が0円の方にお伺いします。その理由を教えてください。（いくつでも）

※今月の家計の支出を節約したい金額（P.6）に、0円を回答した方に聴取



ポイントサービスの利用意向

ポイントの活用意識と節約志向

「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が42.5%と最も高い。

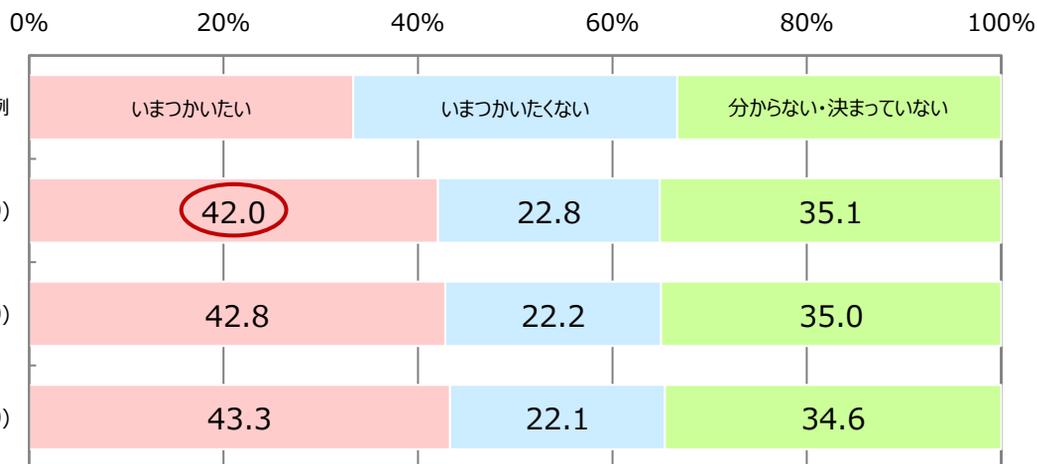
「節約したい」派では、「いまつかいたい」が45.1%と最も高い。

「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

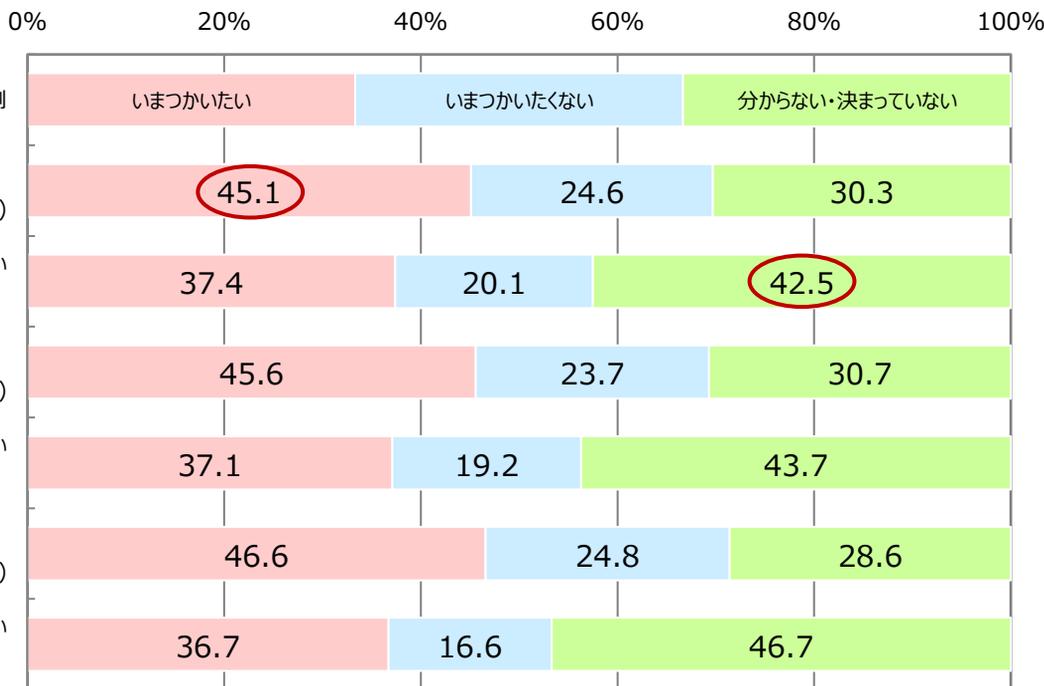
・いまPontaポイントをつかいたいかについて、全体で「いまつかいたい」が最も高く、42.0%となった。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。(単一回答)

【全体】



【節約志向の有無別】 (2024年6月～2025年6月調査)



<「Pontaリサーチ」について>

PontaリサーチはLMが提供するリサーチサービスで、Ponta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。Pontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることができます。

「Pontaリサーチ」サイトURL : <https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/>

